

脳血管病センター



1. スタッフ

- センター長 中島 誠 (特任教授)
- 副センター長 武笠 晃丈 (教授)
- 副センター長 植田 光晴 (教授)
- 副センター長 辻田 賢一 (教授)
- 副センター長 入江 弘基 (教授)

2. センターの特徴、診療・業務内容

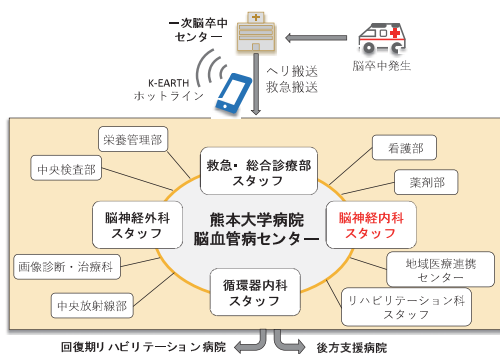
本センターは診療・研究・教育の各領域からのアプローチによる脳血管病の克服を目的として設立された。対象疾患は、急性期脳卒中、診断や治療が困難な脳血管疾患、認知症や脳卒中の原因となる脳小血管病などである。

脳卒中、特に脳主幹動脈閉塞を伴う脳梗塞症例については、他の血栓回収療法施設と協力して取り組んでいる熊本血栓回収療法地域格差解消 (K-EARTH) プロジェクトのホットライン対応と、救急患者受け入れを行っている。院内救急対応件数は前年度から46件増加し、319件であった。急性期脳卒中を含めて救急対応した功績に対し、脳神経内科として病院の医療活動表彰を受けた。

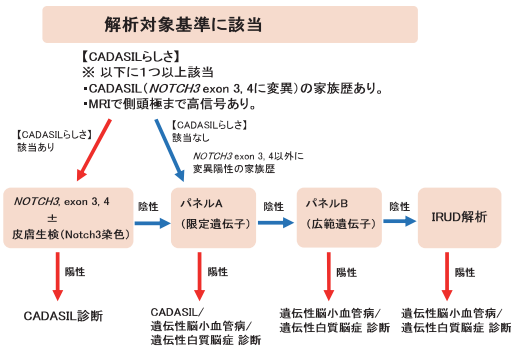
また遺伝性脳小血管病について、全国の施設から診断依頼を受けている。脳神経外科とは、定期的な合同カンファレンスにより脳卒中症例の診断・治療について検討を行っている。循環器内科とは右左シャント性疾患や潜在性心房細動の診断や治療のため、「ブレイン・ハートチーム」としての活動を進めている。

3. 体制

急性期脳卒中症例に対する診療体制



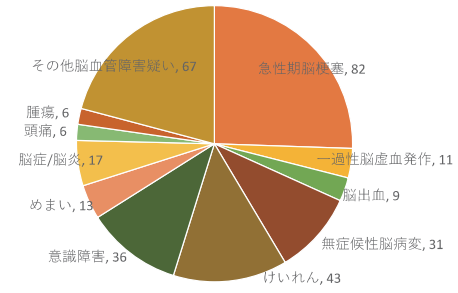
遺伝性脳小血管病パネル診断体制



4. 活動実績

院内救急対応症例の内訳 (N= 319)

1) 対応疾患 (初回/最終診断が脳血管疾患だったもの)



2) 脳卒中・心臓病等総合支援センター モデル事業

2022年度のモデル事業として、当学は全国12施設の1つとして採択された。辻田賢一センター長が中心となり、脳血管病センターに関わる多職種スタッフが協力して、行政とともに活動を進めた。具体的には相談窓口設置やくまもと県脳卒中ノート改訂、県内基幹施設へのアンケート調査や患者支援体制整備に向けた取り組みを行った。支援センターの活動は現在も継続している。

5. 高度先進的な医療の取組

CADASIL、IV型コラーゲン異常症などの遺伝性脳小血管病の診断においては、臨床病態解析学教室のご支援により、遺伝子パネル診断および病理診断をおこなっている。診断依頼への応需体制も確立しており、全国から計72件 (うち他施設65件) の依頼に対応した。

6. 臨床試験・治験の取組

他施設とともに、熊本県内血栓回収療法の登録研究を行った。また国際多施設介入研究「心房細動を伴う虚血性脳卒中発症後の直接経口抗凝固薬の早期開始と通常開始の比較」(ELAN)試験などの多施設研究に参加した。

7. 地域医療への貢献

当院は日本脳卒中学会から一次脳卒中センター・コア施設の委嘱を受けており、血栓回収療法を含め県内の脳卒中治療の拠点としての役割を担っている。またK-EARTHプロジェクト・ホットラインには1年間で36件の依頼があり、治療適応相談や転搬送先の選定を行った。また、うち8件は当院で受け入れた。

8. 医療人教育の取組

当院は日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設として認定を受けており、それぞれの専門育成を進めている。

9. 研究活動

上記の臨床試験に参加しているほか、脳神経外科・脳神経内科ともに多数の臨床研究・基礎研究を行っている。